

ICSW グローバル・コーポレーション (国際社協ニュースレター)

2011年3月

【概要】

- 日本の地震と津波
- 社会保護に関する南アジア UNESCO フォーラム
- UNICEF の e-ラーニング・プログラム～子どもの権利のための社会経済政策
- 打ち続く食糧危機～UNICEF による分析
- UNRISD (国連社会開発研究所) より
- 国連における第 28 回ソーシャルワーク・デー
- KnowHowProfit による無料の「ハウツー」ガイド

日本の地震と津波

日本で起きた恐ろしい破壊的な出来事は、日本の人々に即時の、また長期的な影響を与えている。ICSWのクリスチャン・ロレ会長は、日本のメンバーであるICSW日本国委員会の松寿庶常務理事と連絡を取り合っている。ICSWは、多くの人々を襲った喪失と損失に支援とお見舞いを表明している他の多くの人々と心を同じくするものである。

社会保護に関する南アジア UNESCO フォーラム



左から : Ms. Bindra Hada, Member Secretary National Planning Commission (ネパール)、
Hon. Mr. Felix Perera、社会事業相 (スリランカ)
Ms. Elizabeth Longworth、ユネスコ社会・人間科学担当副事務局長補兼社会研究政策部長

ICSW は、2011年2月に行なわれたユネスコの南アジア社会開発担当相フォーラムに出席した。トピックは、南アジアにおける社会保護政策である。A.S.Shenoy 南アジア地域会長は、

南アジアの社会保護フロアのセッションに参加した。フォーラムは、スリランカの社会事業相である Mr. Felix Perera 閣下が主催した。

担当相らは、会議でまとめられた宣言において、「とりわけ国内の貧しい人々への、食糧危機を含む金融危機および経済危機のすさまじい影響への緊急対応に尻を叩かれている」と認めた。行動公約において、担当相らは、特に以下について合意した。

- 伝統的な社会的支援のシステムをないがしろにすることなく、個人およびコミュニティのリスクおよび損失を訴える、予防的／保護的／促進的対策を含む社会保護への総合的なアプローチを採用することを約束する。
- 社会保護の範囲と利益を、社会の最も見捨てられたか弱い人々～例えば、非正規労働者、移民、障害者、都市部の貧困者、その他差別や爪弾きにあっている虐げられた人々～に広げる必要を認める。
- 世界の貧困サイクルを打破し、社会経済的不平等を削減する効果的な戦略として、子どもに優しい社会保護イニシアチブを強調する。
- 社会保護プログラムの分配において、組織的／ガバナンス的能力および即応体制とを増進する。また、定期的なモニタリングと評価を確保する。
- 国の支出計画において社会保護対策への融資を優先する。
- 社会保護の延伸において、貧者や弱者に尊厳と意見を述べる声を提供しつつ、また、平等、インクルージョンおよび市民権を育みつつ、普遍化された、権利に基づく、ジェンダーに配慮したアプローチに向けて努力する。
- 基本的な社会的移転および社会サービスへの普遍的なアクセスを確保しつつ、各国の事情に合った社会保護フロアのアジェンダを進める。
- 社会保護研究分野を豊かにすることにおいて、我々の国々の間で、地域協力を強化する…云々

(以上は、推奨および行動のごく一部分である。全体については以下を参照のこと。

<http://unesdoc.unesco.org/images/0019/001914/191402e.pdf>)



左 : Ms. Marina Faetanini

デリーに拠点を置く UNESCO 社会・人間科学プログラム・スペシャリストで、今回の担当相フォーラムの組織運営責任者

右 : A.S. Shenoy

ICSW 南アジア地域会長

UNICEF の e-ラーニング・プログラム～子どもの権利のための社会経済政策

ユニセフおよび経済研究財団 (ERF) は、公正さを伴う子どもの権利のための社会経済政策に焦点を当てた、新しい e-ラーニング・プログラムに参加するよう、関係者に呼びかけた。この、自由なマイペースのオンライン・コースは、国連機関、政府、大学、および市民社会

組織におけるあらゆる開発パートナーのもとで受けることができる。

【コース説明】

プログラムは、平等と子どもの権利を促進させるための経済および社会政策についての基本的なコースである。トピックには、

@人権ベースの開発へのアプローチ

@財政／通貨／為替政策を含む、社会的責任のあるマクロ経済政策

@公正なセクター方針

@財政と社会的予算

@多次元的な貧困

@社会保護、移民および気候変動

などが含まれる。e-コースは、最近の経済危機や食糧価格の高騰を含む状況における公共政策において、公平と子どもの権利促進をするのに必要な、根拠に基づいた議論や権利擁護のスキルを目的とする。

【コース期間】

コースは自律的なもので、自分のペースにあわせて完了することができる。

【登録】

最大限の普及を確保するために無償で行なわれる。それぞれのユニットを完了した時点でテストが行なわれる。合格点に達したのものには、証明書が発行される。

【URL】

開始するには以下のサイトから。

<http://www.policyforchildrights.org/>

コースのデザインは、ERF 所長の Jayati Ghosh 率いる ERF チームと、ユニセフの政策実践担当副部長を務める Isabel Ortiz 率いるユニセフ・チームが担当した。

打ち続く食糧危機～UNICEF による分析

ユニセフは新たな食糧価格の高騰に警鐘を鳴らした。2011 年 1 月、国際的な食糧価格指標は、2007～8 年の食糧危機の間に達したレベルを上回った。農作物の急激な価格の変動は、何百万人という人々の食糧確保を危うくさせるだけではなく、開発途上国の経済復興や社会的安定にとっても脅威である。ユニセフのワーキング・ペーパー『急騰する食糧価格』(<http://groups.dev-nets.org/t/3683107/539672/6973/0/>)は、こうした問題点について訴えている。

ペーパー (i) : 2010 年半ばから始まった食糧価格高騰の原因と思われるものについて概説

ペーパー (ii) : 2010 年における開発途上国 58 カ国での地元の食糧価格の動きを検証

ペーパー (iii) : 食糧価格値上がりの家計に対するマイナスの影響を考察

ペーパー (iv) : 三本柱政策 (消費を支える、生産を増やす、食糧市場を管理・規制する) の枠組みの元にある開発途上国 98 カ国における国際的／国内的政策対応の速やかなデスク・レビュー

ペーパー (v) : 各国政府および国際社会への、緊急かつ協調的な政策行動への呼びかけ

ペーパーは、世界の食糧市場における動きを丹念に追跡した結果、2010 年後半にサンプリ

ングした開発途上国の、実に3分の2以上において、ゆっくりではあるが確実な上昇率で地元の食糧価格が上がっていることを明らかにしている。更に重要なことは、2007~8年以前の危機レベルと比較して、集約的国内食糧価格のレベルが、危険なほど高いところに留まっている、ということである（2007年5月と比べると、2010年11月において平均して55%高い）。このことは、多くの開発途上国において、貧しい人々や社会的弱者が、高い食糧コストと容赦なく格闘させられてきた、ということの意味する。

http://www.unicef.org/socialpolicy/index_57549.html

UNRISD（国連社会開発研究所）より

- 『ケア・ワーカーへのケア：国は役割を果たすべきである(Caring for the Care Workers: State Must Play a Role)』

経済、社会、人口動態における変化は、ここ数十年の介護雇用の成長に拍車をかけた。ケア・ワーカーは、『南』でも『北』でも、労働市場において拡大を続ける大きな一角を占める。その一方で、とりわけケア・ワーカー（移民ワーカー、国内ワーカー、看護助手、高齢者ケアのプロバイダーなど）の分野の脆弱性と搾取の問題も増えている。こうした憂慮すべき傾向は、女性の仕事や介護の仕事の継続的な価値の低下とともに、公的部門のコスト削減策および拡大する労働市場の非公式性と密接に結びついている可能性がある。

<http://www.unrisd.org/80256B3C005BF3C2/setLanguageCookie?OpenAgent&langcode=en&url=/80256B3C005BE6B5/search/58E1D52E263E1FAEC12578490045925F?OpenDocument>

- 『金融取引税：改革および普遍的な社会保護を助ける手段か？(The Financial Transaction Tax: A means to aid reform and universal Social Protection?)』

援助の歴史は、片や支援、片や受け取る側の政府の政策余地と経済成長のレベルという両者の間に、まったく逆の関係があることを示している。つまり、援助のレベルが上がると、援助を出す側の政府によって受け取る側の政府に課せられる政策条件が多くなり、その結果「政策の余地」が狭まったり、政策を決める政府の自主性が縮小したり、あるいは政策における市民の優先順位が下がったりする。

<http://www.unrisd.org/80256B3C005BF3C2/setLanguageCookie?OpenAgent&langcode=en&url=/80256B3C005BE6B5/search/0BB921B750D03239C125782A00460DED?OpenDocument>

- 『第1回世界貧困サミット、貧困削減戦略を検証 (First Global Poverty Summit Examines Strategies in Poverty Reduction)』

UNRISD のリサーチ・コーディネーターである Yusuf Bangura は、1月にヨハネスバークで開催された第1回世界貧困サミットで講演した。会議は、ブルックス世界貧困研究所 (Brooks World Poverty Institute)、ニューヨーク市立大学ラルフ・バンチ国際研究所 (Ralph Bunche Institute for International Studies at the City University of new York Graduate Center)、CUTS Center for International Trade, Economics and Environment (CITEE)の主催で行なわれた。目的は、貧困削減における世界機関の役

割を厳しく評価することである。

<http://www.unrisd.org/80256B3C005BF3C2/setLanguageCookie?OpenAgent&langcode=en&url=/80256B3C005BE6B5/search/132D0887051DDA70C1257829003BEE0E?OpenDocument>

国連における第28回ソーシャルワーク・デー

国連における第28回ソーシャルワーク・デーは、2011年3月28日に行なわれた。テーマは、『ソーシャルワークおよび社会福祉を通しての人権の促進』である。国連デーに先駆け、世界ソーシャルワーク学生会議 (http://bluehawk.monmouth.edu/swork/UN/un_studentprogram.htm) が行なわれた。国連におけるソーシャルワーク・デーは、世の中をよくするために働いている世界中の人たちが集う場所である。学生や専門家などが国連に集まり、国際的な舞台で、国連について、また革新的なプロジェクトや国際ソーシャルワークに関連する事柄、あるいはソーシャルワークが果たす重要な役割について勉強することが27年間続けられてきた。

<http://bluehawk.monmouth.edu/swork/UN/>

KnowHowProfit による無料の「ハウツー」ガイド

新しく始まった「wiki」マイクロ・ボランティア・プラットフォームでは、いわゆるハウツーものを書いたり編集したりすることで知っていることを分かち合おうという仕事をしてくれる人を探している。

<http://www.knowhownonprofit.org/>

本ニュースレターの内容の引用・転載は、出展を明らかにする限り自由です。本ニュースレターに掲載された見解は、必ずしも ICSW の方針であるとは限りません。

編集：ICSW 常務理事 デニス・コレル

ICSW 連絡先

P.O.Box 28957

Kampala

Uganda

Website: www.icsw.org

Email: icsw@icsw.org

Tel: +256 414 32 11 50